

米国 最終財物価は落ち着いた状態 (06年4月生産者物価)

発表日：06年5月16日(火)

～生産者物価コアは前年同月比+1.5%と低い伸びにとどまった～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

生産者物価 (Producer Price Indexes)

	最終財		コア		エネルギー	中間財		コア	原材料	コア	＜参考＞ 輸入物価	WII
	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	前月比	前年同月比	前月比	前月比	前年同月比	前月比	前月比
05/04	+0.5	(+4.8)	+0.3	(+2.6)	+2.1	+0.7	+0.1	+2.7	+2.2	+0.4	53.0	
05/05	▲0.2	(+3.6)	+0.2	(+2.8)	▲1.6	▲0.3	▲0.3	▲3.1	▲2.9	▲0.2	50.0	
05/06	+0.1	(+3.7)	▲0.1	(+2.4)	+1.5	+0.2	▲0.1	▲1.7	▲3.6	▲0.2	56.4	
05/07	+0.8	(+4.7)	+0.3	(+2.8)	+3.9	+1.0	+0.1	+5.1	+0.6	▲0.2	58.9	
05/08	+0.5	(+5.3)	+0.0	(+2.6)	+3.0	+0.5	▲0.1	+3.5	+4.6	+0.1	65.0	
05/09	+1.4	(+6.9)	+0.2	(+2.6)	+5.4	+2.3	+1.0	+10.5	+5.6	+0.9	65.5	
05/10	+0.8	(+5.9)	▲0.3	(+1.8)	+4.3	+3.0	+1.4	+5.7	▲1.5	+1.0	62.3	
05/11	▲0.5	(+4.4)	+0.1	(+1.7)	▲3.1	▲1.3	+0.4	▲1.4	+2.4	▲0.1	58.2	
05/12	+0.7	(+5.4)	+0.0	(+1.4)	+2.4	+0.3	+0.4	▲3.5	+1.9	+0.0	59.4	
06/01	+0.3	(+5.7)	+0.6	(+1.5)	+0.1	+1.0	+0.8	+0.4	▲0.5	+0.3	65.3	
06/02	▲1.4	(+3.7)	+0.3	(+1.7)	▲4.7	▲0.3	+0.5	▲9.2	+3.3	▲0.6	61.7	
06/03	+0.5	(+3.5)	+0.1	(+1.7)	+1.8	▲0.1	+0.1	▲2.7	+0.8	▲0.3	62.9	
06/04	+0.9	(+4.0)	+0.1	(+1.5)	+4.0	+0.9	+0.4	+1.2	+4.7	+0.1	70.2	

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季節調整前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

コアは前月比+0.1%と市場予想を下回った

06年4月の生産者物価(最終財)は、エネルギー価格の上昇によって前月比+0.9%と市場予想の同+0.8%を小幅上回った。変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、乗用車価格が下落したことから同+0.1%と市場予想の同+0.2%を下回った。前年同月比でも+1.5%と商品市況が過去最高値を更新するなかで低い伸びにとどまっており、最終財物価は落ち着いた状態が持続している。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率をみると、中間財(コア)が+5.6%(3月同+6.7%)と鈍化傾向を辿っており、遅れて影響を受ける最終財(コア)も4月に同+3.1%(同+3.4%)と鈍化した。競争圧力の激化や生産性の向上等を背景に川下への波及は限定的なものにとどまっている状況に変化はみられない。

資本財、消費財コアともに低い伸びにとどまった

最終財段階でのカテゴリー別の動向をみると、食品関連では野菜が加速したものの、卵等の減速、ポーク等の下落によって、食品価格は前月比+0.1%(3月同+0.5%)と鈍化した。エネルギーは前月比+4.0%(同+1.8%)と加速した。天然ガスが同▲3.0%(同▲0.5%)とマイナス幅が拡大したものの、家庭用電力が同+0.6%(同▲0.7%)、ヒーティングオイルが同+13.7%(同▲3.6%)とプラスに転じ、ガソリンが同+12.3%(同+9.1%)と加速した。

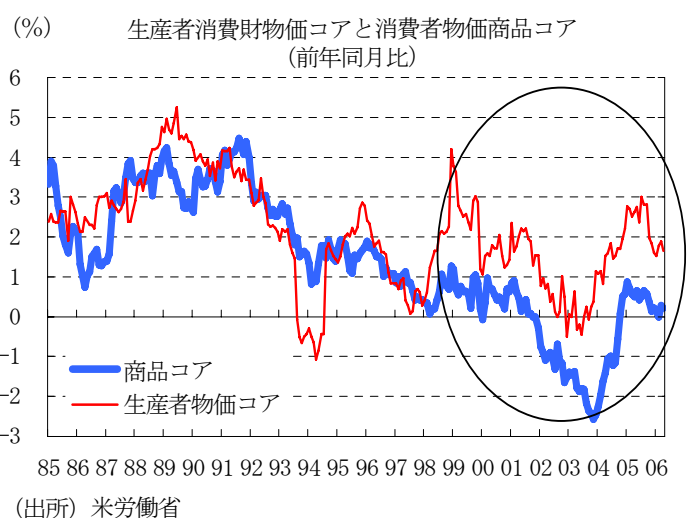
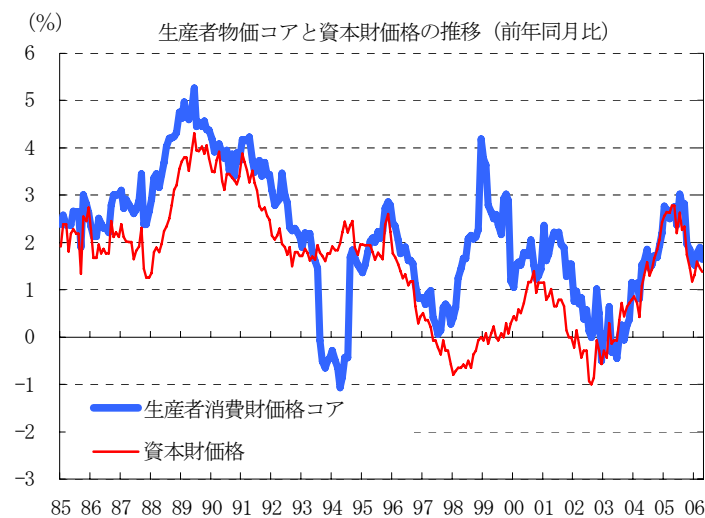
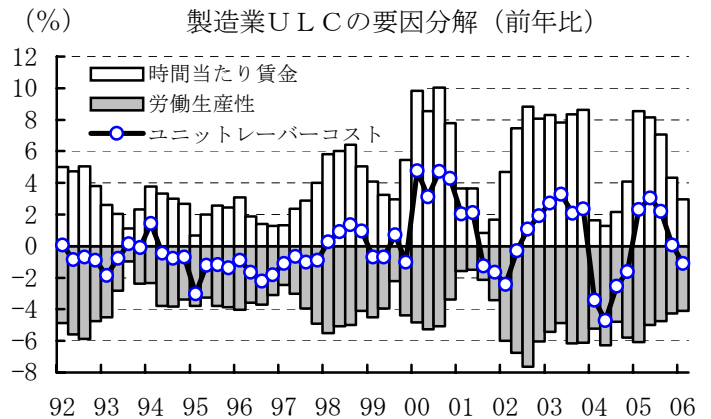
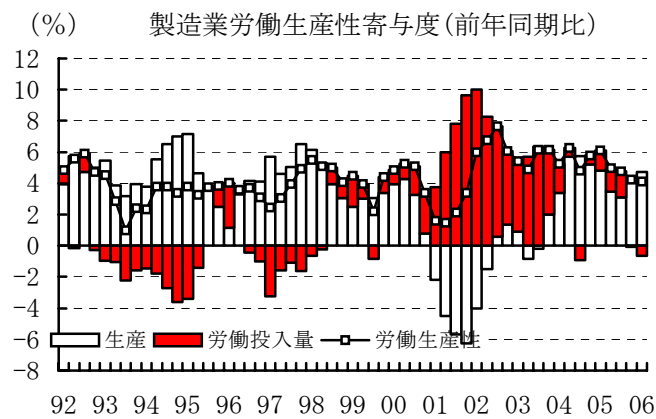
消費財(エネルギー・食料品を除く)は前月比+0.1%(3月同+0.2%)と鈍化した。消費財(エネルギー・食料品を除く)では、移動式住宅、宝石・貴金属が上昇したが、乗用車価格が同▲0.8%(同+0.4%)、定期購読誌が下落した。他方、資本財は前月比+

0.2%（同+0.1%）と小幅加速した。資本財では、コンピューター価格の下落幅が拡大したものの、トレーラー、航空機、通信機器、X線等の医療機器が上昇した。

生産者物価（最終財）コアは前月比で緩やかな上昇にとどまる公算

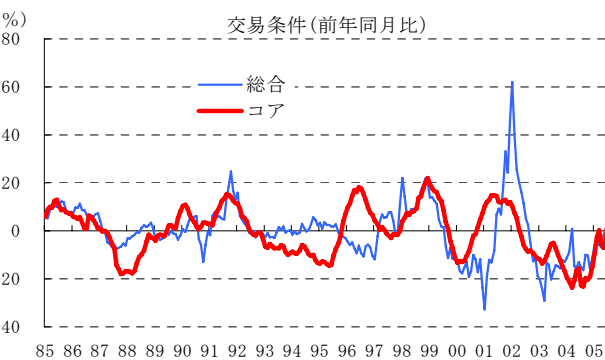
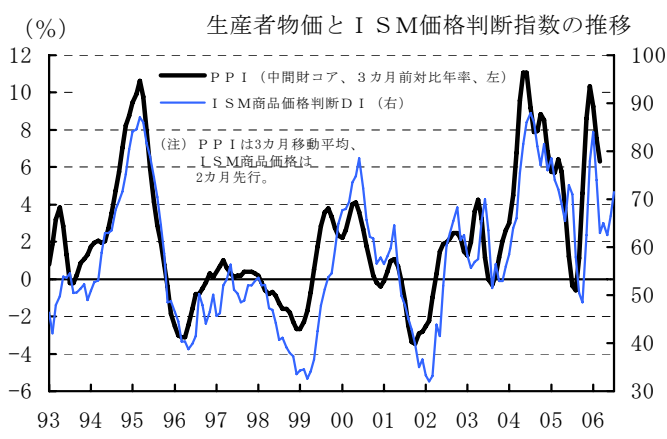
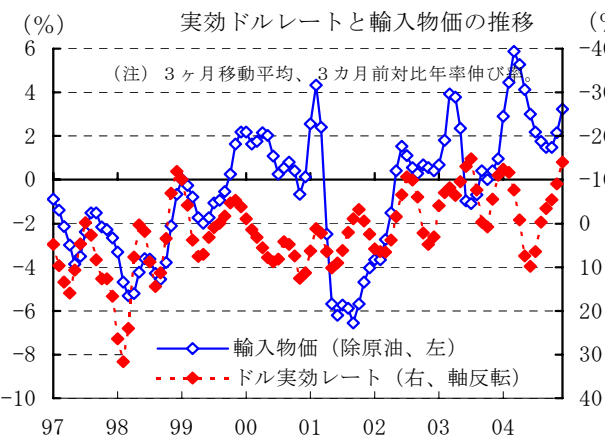
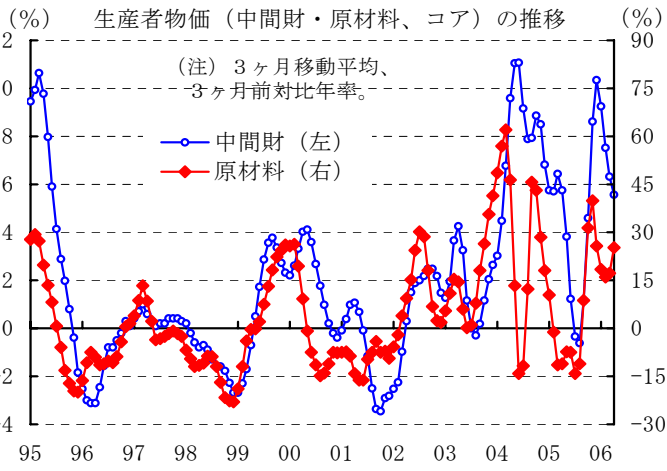
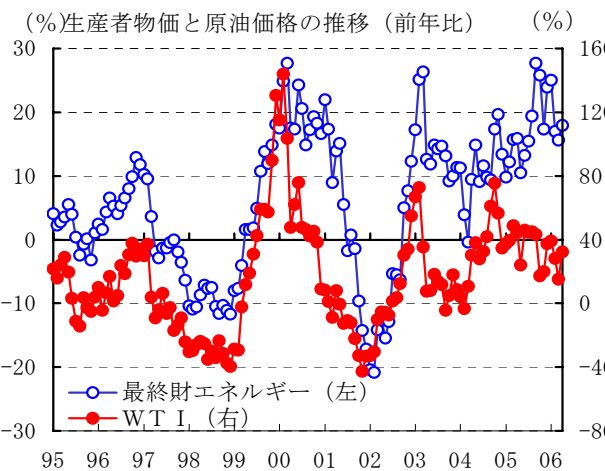
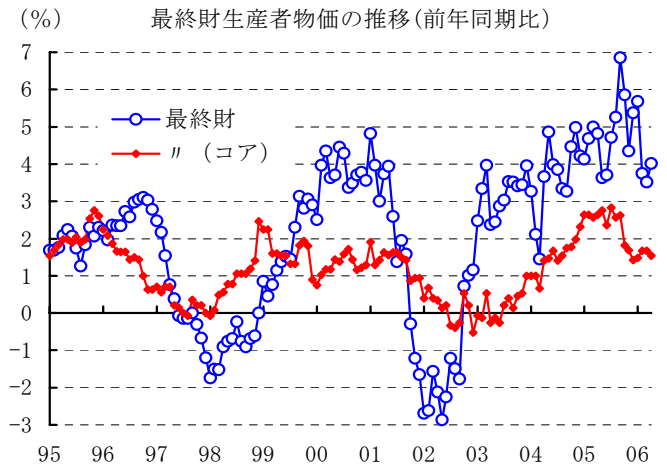
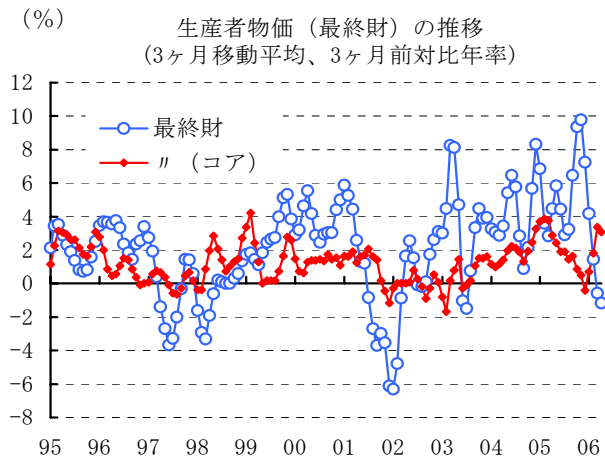
今後に関しては、世界的な景気拡大に伴う供給不足懸念等を背景に商品価格、エネルギー価格が再び上昇したため中間財（コア）に2ヵ月程度先行する仕入価格指数（ISM製造業景気指数）が再び上昇していること、川上でのインフレ圧力を示す原材料（コア）が3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で4月に+25.2%（3月+17.2%）と加速したことから、中間財コアは再び上昇ペースを加速すると見込まれる。

もともと、川上での物価上昇圧力が強まっても、製造業では①売上の増加による数量効果、②情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、③利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられ、価格競争が激しいなか生産者物価（最終財）コアは前期比で緩やかな上昇が続こう。



(出所) 米労働省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。